

どんな大阪をつくるのか

日本共産党の提案

安倍政権の暴走と「維新政治」のもとで行き詰まる大阪。日本共産党はその打開のために5つの方向を提起します。
大阪を変え、日本を変えるため、ごいっしょに力をあわせましょう。

1

大阪のくらしと景気を立て直す決定打—— 賃上げと人間らしく働けるルールを

府民所得の低下、消費税増税などが大阪経済を直撃。打開への決定打は賃上げと「非正規から正規へ」など、人間らしく働けるルールです。大手銀行系のシンクタンクも、関西の景気回復へ「必要なのは、ほかでもない賃金の上昇である」と指摘しています。



2

「格差と貧困」を打ち破り、 人情も、商都大阪もよみがえらせる

「子どもの貧困」が47都道府県中ワースト2位。「格差と貧困」の打開が大阪の大問題です。賃下げから賃上げへ、社会保障の切り捨てから充実へ。国も、府・市町村も、「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」(憲法25条)の実現へ、二重三重に手を尽くすときです。



3

リニア、カジノ、ムダな開発にノー 中小企業を経済の主役に

リニア、カジノが「大阪の成長戦略」?! 採算の見通しもないムダな巨大開発はストップ。全国有数の集積、技術力をもつ中小企業に、ネットワークづくり、最賃引き上げのための助成、社会保険料負担の軽減、販路拡大、世代継承などの支援を抜本的に強めます。



4

「庶民の大阪」—— 民主主義と自治をよみがえらせる

府民一人ひとりの声が息づいてこそ、府政・市政がよみがえります。「一人の指揮官」でやりたい放題の「大阪都」はノー。教育をしめつける「教育基本条例」は廃止。「維新」の顔色をみて動く公務員を、いのちと暮らしを守る「府民・市民全体の奉仕者」に。



5

大阪の進路は大阪の庶民の手で

安倍政権と二人三脚で「憲法改悪」に走る「維新」。大阪市の「住民投票」も安倍政権の後押しで実現したものでした。国のいいなりでなく、「副首都」構想など東京のものまねでもなく、庶民のまち・大阪にふさわしく、大阪の進路は庶民の手で。



大阪の日本共産党の歩みから

戦前

日本共産党が創立された1922年7月の直後から大阪にも党が生まれ、命をかけて反戦平和・主権在民を主張しました。

70年代

1971年に日本共産党、社会党などが力をあわせ、黒田革新府政を実現。老人医療費無料化、公害規制、保育所増設など「政治が変われば、暮らしが変わる」数々の実績が。



71年4月 黒田知事初登庁

90年代

日本共産党を除く「オール与党」に、保守・無党派のみなさんと共同して対決。東大阪市で日本共産党員市長を生み出し、96年衆院選、98年参院選で躍進しました。



96年2月 衆院選・共産党比例近畿ブロックで6人が当選

2010年代

「2大政党」体制が破たん。大阪では「維新」が生まれ、知事・市長の座を手にするなか、「反維新」の共同を展開。2013年堺市長選挙、2015年大阪市の「住民投票」で市民とともに勝利しました。



2013年9月 堺市長選挙に勝利した竹山市長と